

# 民主政治と政治参加

～選挙のしくみを理解し模擬選挙を通して  
政治に参加する意義を考えよう～

埼玉大学教育学部附属中学校教諭 二瓶 剛



## 実践の概要について

埼玉大学教育学部附属中学校社会科部では、「他者との関わりを通して思考を再構築する社会科学学習」を研究主題として、今回、公民的分野において、模擬選挙を通して政治に参加することの意義について考える学習に取り組んだ。

議会制民主主義について、実際に選挙の仕組みを調査したり、模擬選挙や政策討論会などの体験的な活動を行ったりすることによって、理解を深めさせるとともに、主権者として政治に参加することの意義についても押さえていくことができると考えた。また、民主政治を推進するためには公正な世論の形成や国民の政治参加が必要であり、そこから選挙の意義について考えさせ、最終的には社会に参画することの大切さや重要性に気づかせることができると考えた。

具体的内容としては、生徒たちに、福祉・地域振興のいずれかに重点を置く政党を結成させ（2つの選挙区に分ける）、それぞれに政策および政権公約を作成させた。模擬選挙に向けての選挙公報・政党ポスター作成、演説会原稿作成、政策討論会での質疑応答への準備等も各党で取り組ませた。7時間目では、実際に立会演説会、政策討論会を開いた後に投票を行った。

模擬選挙を行うだけでなく、選挙結果を受けて自分たちの投票行動を振り返った。また、政治学の専門家（埼玉大学社会調査研究センター

長・松本正生教授）を外部講師として招聘し、活動の評価や選挙についての様々な示唆をいただいた。

## 模擬選挙の様子

下記が本実践の単元計画である。単元の最初からの流れを説明すると、まず、民主主義や選挙制度の理解を押さえていった。また、選挙制度についての理解を深めさせるとともに、課題についても捉えさせる授業を行った。

それらの基礎的基本的な知識を押さえた上で、選挙公報・選挙ポスターの作成など模擬選挙に関わる学習に取り組んでいった。7時間目は、その成果を立会演説会、政策討論会という形で表現する場である。生徒には選挙数日前に選挙公報を配布し、ポスターも同時期に掲示し十分に考える時間を与えた。

当日は教室より広いロッカースペースを会場とし、初めにA選挙区に当たる3つの党が、次いでB選挙区に当たる3つの党が立会演説を行った。どの党もPCのプレゼンター



選挙ポスター

時間目	学習活動・[ ]内は評価の観点
1	市長になって企業の跡地利用を考え、政治への興味関心を高める。【関心・意欲・態度】
2	民主主義について理解し、政党の役割についても考える。【思考・判断・表現・知識】
3	日本の選挙制度の特色と、課題について調べる。【技能・知識】
4	模擬選挙①政党の結党、政策の立案を行う。【関心・意欲・態度・思考・判断・表現】
5	模擬選挙②政策を立案し、政権公約を作成する。【思考・判断・表現・技能】
6	模擬選挙③政策を調整し、選挙に向けての対策を考える。【思考・判断・表現・技能】
7	模擬選挙④選挙を通して政治に参加する意義を考える。【思考・判断・表現・技能】
8	模擬選挙⑤選挙結果を受けて、投票行動を振り返る。【関心・意欲・態度・思考・判断・表現】



各政党による政策討論会

シオンソフトを活用し、有権者たる他の選挙区の生徒へ自分たちの政策と政権公

約を述べる事ができた。

立会演説会の内容の一部を紹介すると、例えばA選挙区では福祉政策を選挙の争点とさせていたので、「福祉施設の建設」「人材の育成支援」「老人ホームと保育園の合体」「失業者に福祉介護の仕事を」などの政策を発表していた。また、B選挙区では地域振興が選挙争点なので、「テルマエサイタマ・BathへはBusで大型銭湯に行こう」や「山間部にアウトレットや森林公園をつくり観光名所に」などの政策を発表していた。

後半の政策討論会では、各選挙区三党の政策を闘わせる場として設け、それぞれの党がそれぞれの党に質問したり、追及したりする場面が見られた。フロアにいる有権者も、各党に対して不明な点やもっと聞いてみたい点など質問を投げかける事ができた。例えば、「具体的な予算が示されていない、募金を財源として考えてよいのか」「老人と子供を一緒に施設に入れることで安全性は保てるのか」「駅の近くに保育園を建てることは予算上可能なのか」などの質問が出された。それらの質問に対し、うまく筋道を立てて答える生徒もいれば、想定外の質問だったのか、うまく答えを返せない生徒も見られた。

2つの活動を終え、いよいよ投票である。本物の投票箱をさいたま市選挙管理委員会からお借りし、選挙区ごとに投票行動を行った。

### ◆模擬選挙の振り返り

模擬選挙の振り返りは、単元最終時の8時間目に行った。最初に選挙管理委員会より、投票結果を発表させ、その結果を受けて今回の選挙はどのようなものだったのかを各個人に振り返らせた。試みとして、授業前に自分が投票したいと思った党を事前にワークシートに記入させており、投票後自分が投票した党と比較検討できるようにさせた。



生徒の投票風景

ちなみに、学級の約35%の生徒が授業前に投票したいと思った政党と実際に投票した政党が異なった。投票

先を変更した生徒は、主な理由として「選挙公報やポスターでは分からないことが、立会演説会や、政策討論会でよく分かったから」や「党首の立ち振る舞いの違い」を挙げている。投票先を変更しなかった生徒の主な理由にも「立ち振る舞いがしっかりしていた」や「政策がよく分かった」が挙がっており、立会演説会や政策討論会で、各党の選挙に対しての姿勢を見てさらに確信したということが分かる。

これらの学習活動後、松本正生教授による指導助言をいただいたが、教授は「立会演説会も政策討論会も、ああすればよかったと後悔していることもあるでしょう。その思いを持ち続けてほしい。そのような気持ちを持ってくれた人ほど、この授業の意味があるのだと思います。この悔しさを引っ張り続けてほしい」などと話された。これらの活動を受けて、最後に政治に参加する意義について考えさせる活動を行った。

### ◆おわりに

模擬選挙を行ったすべての生徒に模擬選挙を終えての感想を書かせた。実践の成果として、生徒が選挙を身近に感じる事ができたこと、票を集める側・票を入れる側、両方の立場に立って学ぶことの大切さに気づく事ができた生徒が多かったこと、そして、「国民のみんなが政治に参加することで、今の日本を良くすることに気づく事ができたこと」は、政治に参加する意義を考えさせるという上での最大の成果であったと言える。

にへい つよし 1977年生まれ。埼玉大学教育学部卒業後、埼玉県公立小学校・中学校を経て、埼玉県長期研修教員等研修派遣において埼玉大学教育学部、埼玉県立文書館にて研修後、2011年より現職。